

本時のねらい

- ・すごろくの指示マスを英文で作成して声に出して読み、実際にその行動をとる。「must」の用法についての理解を深める。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・デジタル教科書で英単語の音声聞き、繰り返して意味を確かめることで学習の定着を図る。
- ・ロイロノートの共有ノート機能で、授業者や生徒が入力した内容をリアルタイムで反映させる。
- ・英文作成時の補助として Web 辞書アプリ「DeepL」を活用する。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・授業支援ソフト（ロイロノート） ・iPad ・デジタル学習ドリル「e ライブラリ」 ・web 辞書「DeepL」

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノートのフラッシュカード機能を使った単語チェックを行い、授業への集中力を高める。 ○本時の単元に出てくる新出単語の発音などを確認する。 【写真 1】 	<ul style="list-style-type: none"> ※何度も繰り返し確認することができ、語彙力の向上につながる。
展開 (35 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ロイロノート上に作られたすごろくの空欄マスを埋める。今回は「must」を使うため、「must」を用いた英作文に取り組む。取り組む際は、授業者が日本語を提示したり、自身で日本語文、英文のどちらにも取り組むなど、バリエーションを加えて指示を出していく。 【写真 2】 ○すごろくに取り組む。すごろくの指示マスに止まった場合、そこに書かれている英文を必ず読む。さらに、指示マスに書かれた文章も英語で答えるなどし、英語に親しむ時間を多く作る。 【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくの指示マスを作る際、ロイロノートの共有ノート機能を活用し、授業者、生徒が同じ画面を共有する。 ・生徒が作成した文が間違っている場合などは、授業者がその場で訂正したり、アドバイスを行う。 ・Web 辞書を使う場合、今回の授業で学習する内容とそぐわない英文が表示される場合がある。（今回は「must」の例文を出したが、「have to」と表示される場合がある）この場合は、単に否定するのではなく、「must」、「have to」のそれぞれが持つ意味に言及し、そのうえで「must」を使うよう指示する。
まとめ (5 分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「must」の用法について確認する。「e ライブラリ」を活用し、本時の学習内容の習熟度を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「e ライブラリ」の難易度や進め方を自分で設定するよう助言を行う。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真 1】デジタル教科書の範読機能を用いて、単語の発音と意味を学習している様子。



【写真 2】ロイロノートを使い、すごろくのマスを目を作成する様子。



【写真 3】作成したすごろくマスにある英文を読み解きながら、すごろくに取り組む様子。

児童生徒の反応や変容

- ・ロイロノートですごろくを作成することで、生徒は楽しく、積極的に英作文に取り組むことができていた。
- ・英作文を作成する際に、翻訳サイトを使うことで「must」と「have to」以外の英文についても、より深く知ることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・翻訳サイトを用いて英文作成に取り組むことにより、少し難しい表現にも挑戦でき、英作文に対する意欲を高めることができていた。
- ・すごろく等のゲームに取り組ませることで、英語に抵抗感を覚える生徒でも、主体的に学ぼうとする気持ちを引き出すことができていた。